

## 第56回はたらく女性の中央集會に2日間で1050人!

第56回はたらく女性の中央集會が東京都内で10月15、16日開催されました。2日間でのべ1050人の参加がありました。全教、教組共闘連絡会等からの参加は、のべ204人でした。東京実行委員会には、都教組、東京私教連などの教職員が参加し、集會成功のために奮闘しました。

集會は、ぞうれっしゃ合唱団による合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」で開会しました。

記念講演では「ヴォイス・フロム・フクシマ〜21世紀を、生きるよろこび・働くよろこびへ〜」と題して福島県立医大の後藤宣代さんが講演しました。「2011年10月15日は新たな歴史が始まる日。今、地球的規模で声をあげ、立ち上がる人々の大きな流れがある。アメリカではウォールストリートからはじまり『1%の強欲と99%の我々』と行動が広がっている。核と放射能と人類は共存できない。脱原発は『人間の安全保障』の前提だ。女性が声をあげ、街頭へくりだし、多様な人々と連帯し、歴史を切り拓いてきた。今日、極東の地・東京の女性たちから声を上げよう『ヴォイス・フロム・フクシマ、ヴォイス・フロム・トウキョウ』」と訴えました。



文化行事で歌声を披露した元新国立劇場合唱団員の八重樫節子さんは「4月に最高裁で逆転勝利し、『音楽家だって労働者』と認められました」と報告。「たたかいはまだ続きます」と支援を訴え、会場から大きな拍手が送られました。また不当な解雇などに抗してたたかう女性たちが、報告・支援を訴えました。

全体会終了後、日本教育会館から、淡路町交差点まではたらく女性のパレードを行いました。先頭には、講演者の後藤宣代先生もピンクの法被を持参で参加し、元気よく沿道にアピールしました。

全体会終了後、日本教育会館から、淡路町交差点まではたらく女性のパレードを行いました。先頭には、講演者の後藤宣代先生もピンクの法被を持参で参加し、元気よく沿道にアピールしました。

## 子ども子育て新システムNO! 国は保育に責任を! すべての子どもによりよい保育を!

政府は、年内にも「子ども子育て新システム」の成案をとりまとめ、2012年通常国会へ法案を提出しようとしています。こうした緊迫した情勢の中、こわすな保育制度つくり保育所 保育の公的保障の拡充を求める11.3大集會が開かれました。新システムは、問題が噴出している介護保険や障害者自立支援制度をモデルに、保育の分野にも直接契約・直接補助、応益負担、事業者指定制度を導入するものです。それは、安上がりな保育の量的拡大を図り、保育に委ねて産業化するものです。保育水準の低下によって子どもや保護者に負担を強いるだけでなく、経済的困難を抱える家庭や障害のある子どもの福祉を必要とする家庭、子どもが保育施設から排除され、施設にとっては安定的な運営が困難になることが予測されるなど、多くの問題をはらんでいます。子どもの権利を最優先とする立場に立ち、国・自治体が保育に責任を持つ制度の拡充こそが求められています。そうした立場から、集會には、全国から保育者、保育所の父母、保護者、子どもたち、幼稚園の教職員など5000人が集まりました。全教からは、全教女性部、全教幼稚園部を中心に約20人が参加しました。また、前日に行われた11.2政府・国会要請行動には、長尾副委員長と小畑女性部事務局長が参加し、文科省、国会議員への要請行動を行いました。



# 第21回全国女性教職員学習交流集会in香川感想文編

前回のニュースから時間があいてしまいましたが、香川集会の感想文をいくつか紹介します。

## <全体会・講演について>

- ・オープニング、特別報告、記念講演、どれもとてもすばらしかったです。特別報告は、一言一言が胸に突き刺さりました。構成劇が終わるころには、感激で胸がいっぱいになっていました。出演者の皆さま、どうもありがとうございます。オリジナル曲が2曲ともすばらしかったです。
- ・福島の大貫先生の報告に、涙、涙でした。原発見直し、安心安全な暮らしを守る活動をさらに全国で盛り上げる必要があると強く感じました。
- ・香川のオープニングは、元気いっぱい、とてもよかったです。特に「教育に臨時はない」の歌が、心を打ちました。高松空襲のDVDもとてもよかったです。福島の大貫先生のお話をきけたことが、本当によかったです。報道されない生の声がきけ、「原発なくしたい」という思いだけでなく、共に運動にも力をつくそうという決意を持ちました。
- ・600名もの女性のパワーを感じました。香川の先生方の構成劇からは、日頃からみんなが子どもたちのために！とがんばっておられる姿がよくわかりました。思いはみんな一緒だと改めて感じました。全国にこんなにも仲間がいる、元気をもらいました。ベテランの先生方の中、若い先生の姿も見られてうれしかったです。
- ・久々というより人生初のマシンガントークの講演、1時間40分で3時間分の話を聞いた感じです。時折入る「現代会話」がスパイスになり、今まで漠然と思っていたことが、細かく分析された資料により明確になりすっきりしました。どれだけ日本政府が国民のことを考えていないかがよくわかりました。香川の財産ですね、本田さんは。
- ・本田さんのお話し、とても楽しみにしていました。期待通りの内容でした。内容が豊富でぎっちりつまったものを懸命に早口で話してくださり、伝えたいという熱意を感じました。これからの社会という大枠の形（新たな循環モデル）を見据えながら、目先のことにも確実に前進させる方向で取り組んでいくことが大切だと改めて思いました。つい「家族」についても「昔の家族は」と思いがちですが、そう言ってばかりではダメなのだと痛感しました。それにしても道のりはながく険しそうです。具体的な諸提案、共感できます。
- ・たくさん参考になる資料（ちょっと難しいものが多かったですが）があり、ずっとしゃべり続けられた本田先生の迫力に驚かされました。家にも大学を卒業してからなかなか働けない長男がいて、いまのままの社会では、成り立っていかないということはおそらくわかっているのですが、若者が働きやすい世の中にしていかなくては、と感じました。

## <基礎講座1「『ビキニ事件』から見た『福島原発被災』と教育の課題』について>

- ・これまで自分が認識していた放射能問題は、間違っていたことに気づかされました。まさに政府やメディアにおどらされていたということがわかりました。正しい情報を入手するためには、自分で調べることと専門家から分かりやすい話を聞くことなど、自分自身の分析力を高めていかなければならないと思いました。教育課題についてのお話もお伺いすることができて、参加してよかったなと思いました。子どもたちとともに学習する中で、本来子どもたちに身につけさせなければならない力とは何か？という大きな課題をいただいたように思います。学力偏重ではなく、生きてはたらく学力を身につけさせられるように、私自身もしっかり学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。
- ・ビキニ事件の真相をさぐったDVDを見て、事実を知らなかったことを恥ずかしく思った。それが、地元の高校教師と高校生たちのほんとうに地道な調査をもとに作られていることも驚きだった。毎日の授業（高校の数学）で、生徒たちに課題をみつけて解決していく力をつけるにはどうすればよいか、考え続けてこたえがまだ見えないが、何かヒントをもらったように思う。
- ・放射能汚染は対岸の火事ではない、身近なものにしてほしいという訴えが胸に響きました。ビキニ事件を第五福竜丸問題に矮小化して事件の打ち切りを図った57年前を繰り返してはならない。本当は、日本中に放射能をまきちらされたのに。自分の家、学校、線量計ですぐ調べようの提起に説得力がありました。ゆがんだマスコミ報道に惑わされないように、自分たちの命との関わりで伝えていきたいと思いました。

(次号につづきます)

**両立支援・母性保護・女性の地位向上・ジェンダー平等をもとめ、仲間づくりをすすめる**

**全教女性部ポテッカーづくり運動をすすめよう！**

8月の女性部委員会でポテッカーの標語を募集してから、2か月半がたちました。まだ、応募は10件、29標語です。ぜひ各県、各支部の女性部で職場の現状を出し合いながら、ポテッカーにふさわしい標語を考えて、全教女性部までお寄せください。締切は12月16日（金）です。よろしくお願ひします。